

# 山口大学おもしろプロジェクト2025 報 告 書



YAMAGUCHI UNIVERSITY  
OMOSHIRO PROJECT  
since 1996

山 口 大 学



# は じ め に

学生支援センター長 杉井 学

「おもしろプロジェクト2025」の活動報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

まず、2025年度の活動を無事に終え、素晴らしい成果を収めた学生の皆さん、お疲れ様でした。そして、学生の自由な発想と挑戦を温かく見守り、支えてくださった教職員、地域の皆様、関係各所の皆様に心より感謝申し上げます。

本事業は、学生たちの「おもしろい！やってみたい！」という純粋な好奇心や情熱を形にする場として、すでに30年間続いています。2025年度も、本学の学生らしい多様性とエネルギーに満ちたプロジェクトが採択され、素晴らしい成果が出揃いました。

特に優秀な成果を出したプロジェクトには、毎年「学長賞」が送られますが、今回も厳正な審査の結果、食と医療の融合に挑んだ『驚きと感動が詰まった、新しい医食バーガープロジェクト（HEART BURGER）』、地域スポーツの未来に真摯に向き合った『ヤマグチみらい部活プロジェクト～安心してスポーツできる環境を山口に～（SIGMA）』、そして確かな技術力と情熱が光った『プロジェクトR（山口大学ロボット研究部）』の3団体が選ばれました。

また、それに勝るとも劣らない熱量で活動を展開した『里山スマートチャレンジ（ひこぼしプロジェクト）』、『Just Be Farmers（新長州ファイブ）』、Light部門の『第1回「山大」運動会（With）』、『ルート583（温泉入欲向上委員会）』の4団体には「学長奨励賞」が贈られました。

さらに、特別認定のため審査対象外ながらも、キャンパス内の環境と命に寄り添い、地道かつ重要な活動を続けた『山口大学野良猫0プロジェクト～山大にゃんこ大作戦 フェーズ2～（山大にゃんこ大作戦）』も大変誇らしい成果を出しています。

どのプロジェクトも、机上の学修だけでは得られない「社会と繋がり、課題に挑戦する」という貴重な経験になったはずです。失敗や試行錯誤も含め、仲間と共に駆け抜けたこの経験は、皆さんの今後の人生において大きな糧となるでしょう。全力で駆け抜けたすべての学生の皆さんに、改めて大きな拍手を送ります。報告書には、それぞれの団体の活動詳細が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

さて、この報告書が皆様の手元に届く頃には、すでに今年度（2026年度）の新たなプロジェクトが始動し、キャンパスの内外で新たな一步を踏み出しています。先輩たちが築いた情熱のタスキを受け継ぎ、次の世代がどのような「おもしろい」を形にしてくれるのか、今から楽しみでなりません。

おもしろプロジェクトをご支援いただいている方々には、今後とも山口大学の学生たちの挑戦に、変わらぬ温かいご支援とご期待を賜りますようお願い申し上げます。







# YAMAGUCHI UNIVERSITY OMOSHIRO PROJECT 2025



スマート農業に触れる体験や、大学周辺の環境保護活動と子どもたちへの啓発活動を通じて、持続可能な食農と自然環境へ貢献します！！



農業体験

ドローンで子どもたちとスマート農業体験

学内の湧池 観音寺

## メンバー募集

- ☐ 文理問いません
- ☐ 食農・環境問題・DX・教育に関心がある人
- ☐ 興味のある人は下記の連絡先へ！

ひこぼしプロジェクト  
contact@hikoboshi-mirai.org



緊急告知

# プロジェクトR 始動

九州夏ロボコン 参加決定!!

## 山ロボット研究部

目標: NHKロボコン出場

山口大学

フォロー募集: ロボット研究部 @yamaguchi-u.ac.jp



活動内容 中学生が安心してスポーツできる環境を山口に

代表 〇〇〇 医学部 2年  
副代表 〇〇〇 理学部 2年

お問合せ インスタグラムのDMにて | インスタグラムやってます!!

活動メンバー募集中



驚きと感動が詰まった

“医食 BURGER”



驚きと感動が詰まった、新しい“医食バーガー”プロジェクト



HEART BURGER 代表 医学部 3年

Email: burger.u.burgers@gmail.com

Instagram: @burger\_u\_burger





# YAMAGUCHI UNIVERSITY OMOSHIRO PROJECT 2025

EXPO2025  
大阪・関西万博  
出展

## Just Be Farmers 新長州ファイブ

ワイルドバンチ  
出店

農業団体、収穫体験  
Instagram: @tyoshu\_5  
X: @tyoshu\_5



## 第1回 「山大」運動会 開催します。

学部対抗!!

同じ学部の仲間と競い、他学部とも交流できる特別なイベントに、あなたも参加しませんか?

最新情報は公式Instagramで随時更新  
フォローお待ちしております!

【開催時期】 秋の陣 2025年10月頃  
春の陣 2026年2月頃  
【会場】 山口大学 古田キャンパス  
【参加条件】 山口大学 学部生



@YAMADAI.SPORTS.FES

代表: [ ] 山口大学経済学部2年 [ ] yamaguchi-u.ac.jp  
副代表: [ ] 山口大学理学部2年 [ ] yamaguchi-u.ac.jp

## Route583

～山口県の温泉を巡る、極上の入浴ルート～



「土曜 露天風呂!?!」  
超絶景穴場スポットから



「証明!?! 季節限定!?!」  
大人気定番スポットまで

動画で旅する  
学生のための  
「温泉図鑑」



@ONSEN\_YAMAGUCHI

温泉入浴向上委員会

プロジェクト連絡先

経済学部3年  
@yamaguchi-u.ac.jp

mail: [ ]



## 山口大学野良猫0 プロジェクト

～山大にゃんこ大作戦フェーズ2～



キャンパス内の猫との  
関わりについて一緒に考えよう

～野良猫が増えすぎた過去を繰り返さないために  
～人、猫、キャンパス内環境のバランス



山大ビブス  
が目印!

活動  
内容  
・適切な給餌管理  
・掃除・トイレ設置  
・猫についての交流会



今いる野良猫の  
猫は不妊手術済  
(耳カットが印)

理念  
ゴール  
・猫についてみんなで考えていける環境を作る  
・むやみに野良猫を増やさず最終的にはゼロへ



山口大学おもしろプロジェクト'25  
山大にゃんこ大作戦  
Mail: yamadaononeko@gmail.com



HP

X



HP

X

---

---

## 目 次

---

---

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| はじめに .....                          | 1 |
| 「山口大学おもしろプロジェクト 2025」採択プロジェクト ..... | 6 |

### 各プロジェクトの最終報告書

|                                                      |    |
|------------------------------------------------------|----|
| ①里山スマートチャレンジ（ひこぼしプロジェクト） .....                       | 8  |
| ②プロジェクト R（山口大学ロボット研究部） .....                         | 12 |
| ③ヤマグチみらい部活プロジェクト～安心してスポーツできる環境を山口に～（SIGMA） .....     | 16 |
| ④驚きと感動が詰まった、新しい“医食バーガー” プロジェクト（HEART BURGER） .....   | 22 |
| ⑤Just Be Farmers（新長州ファイブ） .....                      | 35 |
| ⑥第1回「山大」運動会（With） .....                              | 38 |
| ⑦ルート 583（温泉入欲向上委員会） .....                            | 40 |
| ⑧山口大学野良猫 O プロジェクト～山大にゃんこ大作戦 フェーズ 2～（山大にゃんこ大作戦） ..... | 42 |

### 各プロジェクトの収支報告書

|                                                    |    |
|----------------------------------------------------|----|
| ①里山スマートチャレンジ（ひこぼしプロジェクト） .....                     | 46 |
| ②プロジェクト R（山口大学ロボット研究部） .....                       | 47 |
| ③ヤマグチみらい部活プロジェクト～安心してスポーツできる環境を山口に～（SIGMA） .....   | 49 |
| ④驚きと感動が詰まった、新しい“医食バーガー” プロジェクト（HEART BURGER） ..... | 50 |
| ⑤Just Be Farmers（新長州ファイブ） .....                    | 51 |
| ⑥第1回「山大」運動会（With） .....                            | 52 |
| ⑦ルート 583（温泉入欲向上委員会） .....                          | 53 |

# 「山口大学おもしろプロジェクト 2025」採択プロジェクト

| 番号 | <b>【申請区分】プロジェクト名</b><br><b>-団体名-</b><br><b>プロジェクト概要</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①  | <p style="text-align: center;"><b>【通常】里山スマートチャレンジ</b><br/><b>- ひこぼしプロジェクト -</b></p> <p>スマート農業に触れる体験や、大学周辺の環境保護活動と子どもたちへの啓発活動を通じて、持続可能な食農と自然環境へ貢献することを目的とする。「おもしろプロジェクト 2024」では、自動水やり装置を実装した小松菜栽培を行った。また、長門市で小中学生を対象に「未来の農業体験会」を開催し、ドローン操縦体験、自動水やり装置の実演、プログラミング体験を実施した。今年度は大学内外で畑を借り、スマート農業（作業軽減・データ分析）の実践に挑戦し、レタスやトマト、ダイコンや小松菜を栽培する。また、吉田キャンパスの蓮池の水位のモニタリングを行い、蓮の開花の様子を含め大学内の自然の豊かさを web カメラで発信する。</p>                                           |
| ②  | <p style="text-align: center;"><b>★学長賞【通常】プロジェクト R</b><br/><b>- 山口大学ロボット研究部 -</b></p> <p>ものづくりを楽しむ我々「山口大学ロボット研究部」では、高度な技術と発想が求められるロボットコンテスト「九州夏ロボコン」に出場し、優勝を目指す。その過程を逐次撮影し、SNS にアップする。大会出場後、使用したロボットを地域のイベントで実際に操縦できる場を設ける。ロボット製作から実際にロボットに触れるまでをリアルタイムで公開することで、視聴する人にも臨場感をもって体験してもらう。九州夏ロボコンへの出場を足掛かりとして、NHK ロボコンへの出場を目指す。</p>                                                                                                                  |
| ③  | <p style="text-align: center;"><b>★学長賞【通常】ヤマグチみらい部活プロジェクト～安心してスポーツできる環境を山口に～</b><br/><b>- SIGMA -</b></p> <p>「おもしろプロジェクト 2024」では、部活動地域移行を控えた中学生の不安解消と、野球仲間の構築を目的として、野球交流会（以下、交流会）を開催し、参加者から高い満足度を得たが、参加した中学生や保護者から「野球をする場がなくなるのでは」、「仲間と続けられるのだろうか」といった不安感は依然として消えず課題が残っていると感じる。今年度は、部活動地域移行の準備期間の最終年となっており、地域移行に遅れが見られる山口市では新たなスポーツ環境づくりが急務とされている。「大学生部活動指導員としてのモデルケース検証」、「交流会のようなスポーツ関連のイベント開催」「スポーツをする放課後の居場所作り」、「クラブチームの設立」の 4 本柱を軸に活動する。</p> |
| ④  | <p style="text-align: center;"><b>★学長賞【通常】驚きと感動が詰まった、新しい“医食バーガー”プロジェクト</b><br/><b>- HEART BURGER -</b></p> <p>私たちは医学生チームで、健康の鍵“短鎖脂肪酸”に着目し、アレルギーにも配慮した新しいハンバーガーを開発する。バーガーには山口県産の食材を使う。食育や地域活性にも貢献し、地元イベントや学校での無料配布を通して、子どもから大人まで「美味しい」で心も体も笑顔にする、新しい食のカタチを届ける。</p>                                                                                                                                                                                |

# 「山口大学おもしろプロジェクト 2025」採択プロジェクト

| 番号 | 【申請区分】プロジェクト名<br>-団体名-<br>プロジェクト概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑤  | <p><b>【通常】 Just Be Farmers</b><br/>- 新長州ファイブ -</p> <p>「新長州ファイブ」は、農作業を通して地域との交流を深める学生団体である。今年度は農地を2000m<sup>2</sup>に拡大した。ハロウィンで使われる巨大かぼちゃの重量記録更新を目指し、「アトランティックジャイアント」という品種のかぼちゃを育てる。宇部市のイベントにかぼちゃを持ち込み、市民の皆さんと模様を掘るワークショップを開催し、アート作品として展示する。安全第一を徹底し、参加者全員が安心して取り組める活動を展開し、地域の魅力発信と地域活性化を図る。</p>                                              |
| ⑥  | <p><b>【Light】 第1回「山大」運動会</b><br/>- with -</p> <p>山口大学で学部対抗の運動会を開催する。山口大学には10の学部、学環がある。人数が少ない学部は連合を組んでもらう形で7チームと社会人1チームの計8チームで、1チーム40名の計320名の参加者を募り、チームごとに3、4か月練習してもらう。また、運営側は40名体制で対応する。競技内容は、リレー・綱引き・玉入れ・大縄・借り物競争といった運動会ならではの競技から、ドッジボール・バスケ・ジャガー（当団体で行っているスポーツ）といった球技大会に近いスポーツまで検討している。山口大学のグラウンド、体育館で実施する。</p>                            |
| ⑦  | <p><b>【Light】 ルート 583</b><br/>- 温泉入欲向上委員会 -</p> <p>山口県内の温泉施設取材し、温泉の魅力を伝えるパンフレットと動画を作成する。特に湯田温泉の日帰り温泉施設に焦点をあて、学生に温泉を身近な存在として感じてもらうとともに、山口県の温泉の認知向上を目指す。パンフレットは日本人以外の方にも伝わるように、日本語版と英語版を作成し、大学や湯田温泉観光案内所に設置する。動画作成の経験を活かし、「分かりやすく、行きたくなる動画」をInstagramで発信する。</p>                                                                                |
| ⑧  | <p><b>【特別認定】 山口大学野良猫0プロジェクト～山大にゃんこ大作戦 フェーズ2～</b><br/>-山大にゃんこ大作戦-</p> <p>60匹以上にまで増えていたキャンパス内の野良猫は、TNR活動などにより現在25匹にまで落ち着き、適切に管理していけば減少が続く見通しだ。そして今、いまだ残るキャンパス内の猫トラブルの解消や、また野良猫が増えすぎる状況を繰り返さないために、この数年間の活動の継続、かつ学内全体で取り組むことが必要不可欠である。地域環境や動物福祉に関わる問題であり、みんなで話し合う交流会、給餌・掃除管理の実践、啓発活動などを通して、山口大学全体のリテラシー向上を図るとともに、学生の社会的スキル向上のための実践的な学びの場とする。</p> |

●【申請区分】について

【通常】 支援上限額 30 万円・自由な発想に基づきプロジェクト課題に対して深く追求するもの。

【light】 支援上限額 10 万円・自由な発想に基づきプロジェクト課題に対してまずは挑戦してみるもの。

【特別認定】 これまでの「おもしろプロジェクト」の活動実績により、予算配分はなくても活動したいという意欲があるもの。活動を継続することの意義があり、その効果が期待できるもの。

★学長賞・・・最終報告資料を評価対象とし、プロジェクト選考委員により選出される。

# 里山スマートチャレンジ

## ーひこぼしプロジェクトー

|     |                                                                                                                                               |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表者 | 安岡直輝（経済B 4年）                                                                                                                                  |
| 構成員 | 鶴丸智也（経済B 4年） 津田蒼太（経済B 4年） 花岡稜太（経済B 4年）<br>村上智哉（工学B 3年） 鈴木那奈子（農学B 2年） 宮本桂太郎（共獣B 2年）<br>石田和歩（工学B 1年） 國吉真太郎（工学B 1年） 富永凌羽（農学B 1年）<br>平田陽樹（農学B 1年） |

### 1. 活動の概要

本プロジェクトは、「スマート農業の試作」「大学周辺の自然環境の保護」「子ども向け農業体験会」の3つを柱として、持続可能な食農と自然環境について学び、地域とともに実践することを目的に活動しました。

申請時には、畑での栽培とIoT活用、蓮池の水位モニタリング、そして複数回の体験会実施を計画していましたが、状況に応じて内容を見直しながら活動を進めました。

### 2. 活動内容と実施結果

#### 2. 1 スマート農業の試作

当初は大学内外で畑を借りて、センサーを活用した栽培実験を行う計画でしたが、圃場の確保や管理体制の課題により、本格的な栽培実証までは至りませんでした。

一方で、昨年度から継続している

- ・自動水やり装置
- ・センサーを用いたデータ取得

といった知識・技術を、体験会の中で実演という形で活用しました。

結果として、「実装」から「体験を通じた共有」へと形を変えながら、スマート農業の可能性を伝えることができました。

また、今後のスマート農業試行の布石として、平川地域の農地を借用して野菜の栽培を行いました。スマート農業以前に畑で作物を育てる事の難しさを実感しました。トラクターなどの農機具もお借りして構成員の技術向上にも努めました。



トラクターを用いて耕作

#### 2. 2 蓮池を中心とした環境保護・発信

吉田キャンパス内の蓮池を拠点として、

- ・季節ごとの記録



- ・ SNS での発信  
を行いました。

申請時に掲げた水位モニタリングの本格実装には至らなかったものの、蓮の開花や周辺環境の様子を継続的に発信することで、「大学の中にこんな自然があるとは知らなかった」という声が得られ、学内資源の魅力発信という成果につながりました。



咲き誇るオオガハス

## 2. 3 未来の農業体験会

2025 年 8 月 3 日に宇部市にて体験会を実施しました。

### 内容

- ・ 野菜の収穫体験
- ・ 自動水やり装置の実演
- ・ ドローン操作体験



親子でミニトマトの収穫体験

### 成果

- ・ 小学生と保護者 10 組が参加
- ・ 「農業が楽しい」「またやりたい」という声多数

当初は複数回開催を予定していましたが、圃場や運営体制の都合により 1 回の実施となりました。しかし、その分内容を充実させることで、参加者満足度の高いイベントとなりました。

## 2. 4 情報発信・運営

SNS を通じて活動の様子を発信し、地域関係者とのつながりを広げました。

また、定期ミーティングを通じて、学生主体での企画・運営体制を構築しました。

## 3. 計画からの変更と理由

申請時の計画に対して、主に以下の変更がありました。

#### 変更点

- ・畑での本格的なスマート農業実証 → 未実施
- ・蓮池の水位モニタリング → 一部未実施
- ・体験会の複数回開催 → 1 回に縮小

#### 理由

- ・圃場の確保および維持管理の課題
- ・作物の生育状況
- ・学業・就職活動との両立

これらの制約の中で、「できる範囲で最大限の成果を出す」ことを重視し、活動内容を再構成しました。

### 4. 活動を通して得られた成果

本プロジェクトを通して、以下の成果が得られました。

#### ① 教育的成果

- ・子どもたちの農業・技術への関心向上
- ・体験型学習の有効性の確認

#### ② 環境・地域面の成果

- ・蓮池という学内資源の価値発信
- ・環境への関心喚起

#### ③ 学生の成長

- ・企画から実行までの実践経験
- ・課題に応じて柔軟に計画を修正する力

特に、「計画通りにいかない中でどう動くか」を学べた点は大きな収穫でした。

### 5. 課題と今後の展望

本年度の課題として、

- ・活動拠点の安定確保
- ・継続的なプログラム設計
- ・人員・時間の制約

が明らかになりました。

今後は、山口市平川地域など拠点を明確化し、「体験 → 学び → 実践」へとつながる継続型の活動に発展させていきます。また、蓮池での活動も、単なる保全にとどまらず、環境教育やデータ活用へと広げていく予定です。

### 6. まとめ

本年度は、申請時の計画通りに進まない部分もありましたが、その中で活動の方向性を柔軟に見直し、

- ・農業体験
- ・環境保全
- ・情報発信

を組み合わせ実践を行うことができました。

ひこぼしプロジェクトは今後も、地域とともに学び、実践し、価値を生み出す活動を続けていきます。本プロジェクトの実施にあたり、ご支援・ご協力を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。

また、ご指導いただいた支援教員の先生をはじめ、関係各所の皆様のご助言とご協力により、本プロジェクトを形にすることができました。

さらに、本活動に関連して、農林水産省が実施する「みどり戦略学生チャレンジ」において賞状をいただくことができました。これは、本プロジェクトの取り組みが、持続可能な農業や環境保全の観点から一定の評価をいただいたものであり、大きな励みとなっております。

特に、農業体験会の実施にあたりご協力いただいた地域の皆様や、参加してくださった子どもたち・保護者の皆様には、貴重な機会をいただきましたことを深く感謝申し上げます。皆様との関わりを通して、本プロジェクトの意義を実感することができました。

また、本活動とともに進めてきたメンバーの努力と協力にも心から感謝いたします。



今後も、本プロジェクトで得た経験と成果を活かし、地域とともに学び、持続可能な社会の実現に向けた活動を継続してまいります。

本報告書が今後の地域連携・教育活動の一助となれば幸いです。

# プロジェクト R

## ー山口大学ロボット研究部ー

|     |                                                                                                                            |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表者 | 小田貴将（工学B 2年）                                                                                                               |
| 構成員 | 古波蔵春太（工学B 2年）伊藤千代（工学B 2年）新谷綾乃（工学B 2年）<br>堀田和巴（工学B 2年）黒岩俊太（工学B 2年）宮本優羽（工学B 2年）<br>泉徳浩（工学B 2年）鈴木慎（工学B 2年）西川凌生（工学B 1年）<br>他一名 |

### 1. プロジェクト概要

本プロジェクトは、ロボットコンテスト（以下、ロボコン）への出場とその過程を SNS 等で発信すること、および大会終了後に実際のロボット操縦体験の場を設けることで、一般の方々にロボコンをより身近に感じていただくことを目的とした。併せて、地域の子どもたちに工学や技術に触れる機会を提供し、ものづくりへの興味関心を喚起することを目指した。

### 2. 活動内容

毎年福岡県で開催される「九州夏ロボコン」への出場プロセスを撮影し、YouTube および Instagram にて公開した。大会本番では予期せぬマシントラブルに見舞われたものの、機体の設計思想や独自性が高く評価され、「デザイン賞」を受賞した。



九州夏ロボコン授賞式後

広報活動に関しては当初から手探りの状態であった。YouTube での長編動画の配信は、プラットフォームの成熟度が高く、機体製作と並行してエンターテインメント性やストーリー性のある動画を継続的に撮影・編集することはリソースの観点から困難であった。一方で、ショート動画を活用した発信では最大 1.1 万回の再生数を記録した。この結果から、文脈への依存度が高い長編動画よりも、視覚的なインパクトや単体での面白さを追求したショート動画の方が、工学の魅力を広く伝える広報手段として高い費用対効果と拡散力を持つことが示された。



8/16 に投稿したショート動画にて閲覧数 11575 回を達成

製作工程は機械班，電気班，プログラム班の 3 体制で進めた。本プロジェクトでは，ロボコンで主流となっているアルミフレームをあえて採用せず，3D プリンターを積極的に活用した独自の設計に挑戦した。特に強度が要求される部品については，学内の機械工作工房およびものづくり創成センターの協力を得て金属パーツを採用し，複雑な形状の部品は 3D プリンターで造形するなど，適材適所の材料選定を行った。

また，プログラム開発においては生成 AI を積極的に導入し，コードの最適化を進めた。今回，初出場ながら限られた期間でデザイン賞を獲得できた背景には，近年のロボコン環境の変化がある。各種パーツのモジュール化が進んでいることに加え，生成 AI の活用によってプログラミングの障壁が大きく下がっており，ゼロベースからでも高度なロボット開発に挑戦しやすい環境が整っていることを，身をもって証明する結果となった。



機械工作工房でパーツを製作する様子

## 2. 1 山口大学工学部オープンキャンパス（8月9日）

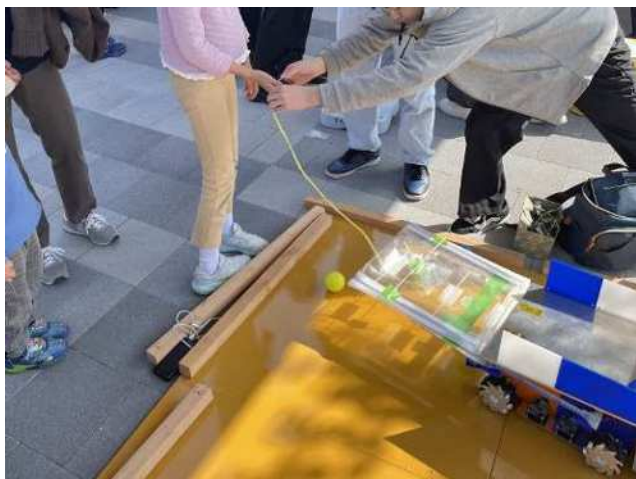
広報活動の一環として、来場した高校生を対象にロボット試作機の操縦体験を実施し、本学の工学分野への興味喚起に貢献した。



オープンキャンパスでの操縦体験

## 2. 2 宇部まつり（11月2日）

九州夏ロボコン出場機体の操縦体験会に加え、地域のお祭りという特性に合わせて自作の「赤外線射的ゲーム」を新たに企画・展開した。赤外線通信を用いた非接触のヒット判定システムを構築したことで、小さな子どもたちにも安全に楽しんでもらうことができた。両ブースともに非常に好評を博し、終日体験待ちの列が途切れない盛況ぶりであった。



操縦体験コーナー



射的コーナー



## 2. 3全日本学生ものづくり EXPO（3月8日）

今年度の集大成として、Giving Campaign 運営事務局が主催する同イベントに参加した。ロボット研究部代表として小田がパネルディスカッションの登壇者に選出され、第一線で活躍するプロのエンジニアと議論を交わした。また、全国から集まった学生や関係者と積極的な交流および情報交換を行い、次年度以降の活動に向けた貴重な知見を得ることができた。



全日本学生ものづくり EXPO 参加時

## 3. 総括

本プロジェクトは、「ロボコン出場とものづくりを通じて、広く一般に工学の魅力を伝える」という命題のもと活動を展開した。結果として、大会での「デザイン賞」受賞、SNS でのショート動画 1.1 万回再生の達成、さらには地域イベントでの実機体験を通じたアウトリーチ活動など、多角的なアプローチで目標を達成することができた。

チームにとって、ロボコン出場も本格的な広報動画制作も初の試みであったが、既存の手法（アルミフレームへの依存や長編動画の制作など）にとらわれない柔軟な発想と、学内施設や最新技術（3D プリンター、生成 AI）の積極的な活用により、当初の計画を大きく上回る成果を収めた。すべてのプロセスが挑戦の連続であったが、活動を通じて多くの人々に「ものづくりの面白さ」と「工学の可能性」を直接的・間接的に伝えることができた本プロジェクトの意義は非常に大きいと確信している。

## 4. 謝辞

本プロジェクトの活動にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りましたすべての関係者の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。皆様のお力添えなしには、これほどの成果を収めることはできませんでした。山口大学ロボット研究部の挑戦はこれで終わることなく、今後もさらに続いてまいります。引き続き、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# ヤマグチみらい部活プロジェクト

## ～安心してスポーツできる環境を山口に～

—SIGMA—

|     |                                                                                                                                                  |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表者 | 梅田晃大（理学B2年）                                                                                                                                      |
| 構成員 | 江谷稟空（理学B2年）金子善太（理学B2年）小林千加史（理学B2年）<br>佐々木未来（理学B2年）林彪斗（理学B2年）林宗明（理学B2年）<br>福元春香（理学B2年）森本まりん（経済B2年）甲斐匠飛（理学B1年）<br>中田虎我（理学B1年）中村響（理学B1年）野村廉凌（理学B1年） |

### 1. プロジェクト概要

部活動の地域移行が令和8年度から本格始動するにあたり、中学生や保護者、教育現場からは、今後の活動に対する困惑の声が上がっている。「友人との練習成果を発表する場はあるのか」、「大会は継続されるのか」といった不安の中で活動する多感な時期の中学生にとって、その精神的ストレスは計り知れない。

こうした背景を受け、私たちSIGMAは昨年度の「おもしろプロジェクト2024」において、山口市における地域移行の現状調査と、小中学生の不安解消・ネットワーク構築を目的とした野球交流会を開催した。この活動は、単なる技術向上に留まらず、他校の選手との交流を通じて仲間意識や協調性を育む場と位置付けた。将来の野球界や地域社会に貢献できる人材、さらには山口大学に進学し多方面で活躍する人材を育成するとともに、「山口市には安心して野球ができる環境がある」という意識を醸成することが活動の本旨であった。交流会自体は高い満足度を得られたものの、参加者からは依然として「野球をする場がなくなるのではないか」という切実な不安の声が多く寄せられ、課題の根深さを痛感する結果となった。

そこで、今回の「おもしろプロジェクト2025」では、これらの課題解決をさらに加速させる必要がある。地域移行の準備期間が最終年を迎える今年度、移行に遅れが見られる山口市において、新たなスポーツ環境の構築は急務だと考える。私たちSIGMAは「大学生指導員のモデルケース検証」、「スポーツイベントの開催」、「放課後の居場所づくり」、「クラブチームの設立検討」の4本柱を軸に、地域移行のロールモデルとなるべく活動を推進していく。

### 2. プロジェクトの背景・目的

このプロジェクトを始動させた背景には、代表の梅田が過去に経験した「野球を諦める」という決断が大きく関係している。代表の実兄が野球をしていたこともあり、代表は小学校3年生から地域の少年野球チームで野球を始めると、少年野球ではキャプテンを務め、中学校時代には県大会ベスト8などの成績を修めた。いつからか高校に進学後も野球を続けることが当たり前で、「甲子園に出場すること」が目標となっていた。しかし、一方で抱えていた「学校教員になる」という目標を優先した結果、野球部のない高校への進学を選択せざるを得ず、志半ばで野球を競技者として離れることになった。この「野球を諦める」という決断は、代表の人生で初めての大きな決断であり、同級生が球場で活躍している姿を見ることは苦しいものだった。

これらの経験から、「環境」のせいで野球を諦める子どもを減らしたい」と考えるようになった。その頃、全国で部活動の地域移行に関する情報が注目されるようになり、制度の転換期において多くの中学生や保護者が活動継続への不安を募らせている現状を目の当たりにし、部活動の地域移行という環境で野球を諦める中学生がいてほしくないと思い、おもしろプロジェクト2024で「野球好き、いや野球大好き～中学生のための交流会～」プロジェクトをSIGMAとして活動をスタートさせた。

当初は野球に特化した活動を展開してきたが、現場での対話を重ねる中で、これらに潜在する課題は野球だけに留まらず、あらゆる競技において共通する深刻な問題であると感じた。こうした気づきを受け、おもしろプロジェクト2025では、昨年の活動で培ったノウハウを基盤に、対象を多様なスポーツへと拡大させようと考えた。



### 3. 活動方法

本プロジェクトの目的を達成するため、山口市教育委員会や部活動地域移行推進室、および市内中学校の教諭と生徒からの情報をもとにし、小中学生を対象とした定期練習会の開催、クラブチームとの練習試合の調整、および地域イベントへの積極的な参加を実施した。

指導の質的向上と信頼性の担保においては、大学生指導者が公益財団法人日本スポーツ協会公認の「軟式野球コーチ 1」の資格を取得するなど、技術指導の向上に取り組んだ。

さらに、プロジェクトの公共性と波及効果を高めるため、広報戦略にも注力した。大学内外に対する情報発信を目的として、現地での広告媒体（ビラ）の配布、および SNS を用いた情報発信を継続的に実施した。

### 4. 活動内容

「ヤマガチみらい部活プロジェクト～安心してスポーツできる環境を山口に～」プロジェクトで SIGMA が実施した活動は以下の通り。

#### 4. 1 定期練習会（大学生指導員のモデルケース検証、放課後の居場所作り）

本プロジェクトの基幹事業として、令和 6 年 9 月より毎週水曜日および日曜日の週 2 回、定期練習会を開催した。実施にあたっては、学校部活動の休養日や活動時間外といった「空白の時間」を活用し、中学生の「放課後の居場所作り」を具現化した。指導体制においては、日本スポーツ協会公認軟式野球コーチ 1 を取得したメンバーを中心に、大学生が主体となって指導案を作成・実践した。定期的な活動の継続により、参加生徒には技術的な向上のみならず、所属校の枠を超えたコミュニティ形成が見られた。また、指導にあたった大学生側も、教育現場のリアルな課題に直面することで指導スキルの高度化が図られ、地域移行における「学生指導員」の有効性と持続可能性を実証することができた。



平日における定期練習会の風景



休日における定期練習会の風景

#### 4. 2元プロ野球選手正田耕三さん野球教室

12月6日（土）、元広島東洋カープの主力選手であり、首位打者や5度のゴールデングラブ賞など輝かしい実績を持つ正田耕三氏を山口大学へお招きし、特別野球教室を開催した。プロ野球の第一線で長年活躍し、引退後も指導者として多大な貢献を続けておられる正田氏の招聘は、本プロジェクトが目指す「質の高いスポーツ環境の提供」を具現化する極めて重要な機会となった。当日のプログラムでは、守備の基礎となる反復練習から打撃指導に至るまで、正田氏による極めて密度の濃い直接指導が展開された。参加した中学生選手らにとって、最高峰の技術と精神性に触れる経験は、単なる技術向上を超えた教育的価値を有するものであった。また、プロの技術を間近で体感できる場を大学が主体となって創出したことは、参加生徒のみならず保護者からも「地域移行への不安がある中で、これほど貴重な機会が得られるとは思わなかった」との極めて高い評価を得ることができた。



正田耕三さんによる打撃指導



正田耕三さんによる守備指導



全体での集合写真

#### 4. 3練習試合 vs MINE クラブ

プロジェクトの一環として設立した「シグマベースボールチーム」は、10月26日（日）、待望の初対外試合を実施した。対戦相手は、山口県美祢市を中心に活動し、部活動地域移行後の先進的なクラブチームとして注目を集める「MINE クラブ」である。本試合は、日頃の練習成果を実戦形式で検証するとともに、地域移行の先行事例である他団体との交流を深める極めて重要な機会となった。試合においては、シグマベースボールチームの選手たちが走攻守の全般にわたり高い集中力を発揮し、実施された二試合ともに圧倒的な内容で勝利を収めた。この結果は、選手個々の技術向上のみならず、大学生指導者のもとでチームが一丸となり、明確な目標を持って日々のトレーニングに邁進してきた成果の現れと言える。実戦を通じた成功体験は、選手たちの自己肯定感を高めると同時に、大学生が運営主体となる組織形態が、競技力の維持・向上においても十分に機能することを証明した。



好走塁で先制点



勝利後の整列

#### 4. 4練習試合 vs 大野シニア

11月30日（日）、シグマベースボールチームは広島県の強豪チームである「大野シニア」との練習試合を実施した。県外の有力チームとの対戦は、選手たちにとって自己の技術水準を客観的に把握し、高いレベルの野球を体感する貴重な機会となった。

試合は終始白熱した展開となり、最終的に引き分けという結果に終わった。勝利には至らなかったものの、強豪校を相手に一步も引かない試合運びを見せたことは、選手たちの自信に繋がると同時に、日頃の練習の質の高さを証明する形となった。また、こうした対外試合を通じて広島県のチームとも交流を深めることができた点は、山口大学を拠点とするシグマベースボールチームが、地域移行後のスポーツコミュニティにおいて広域的なハブ（拠点）として機能し始めていることを示唆していると考えられる。





試合風景



試合後の整列

#### 4. 5 平川地区民駅伝大会

2月15日、シグマベースボールチームは地元山口市の「平川地区民駅伝大会」に出場した。本大会への参加は、日頃活動の拠点としている地域社会への貢献と、野球という枠組みを超えた基礎体力の向上、およびチーム内の結束力を高めることを目的としたものである。

大会には「シグマベースボールチーム A」および「シグマベースボールチーム B」の2チームが出場した。結果は、Bチームが9位、Aチームが10位と、地域住民が多数参加する中で健闘を見せた。沿道からの声を受けながら地域の方々と共に汗を流した経験は、選手たちにとって「地域の一員である」という自覚を育む貴重な機会となった。



集合写真

## 5. 活動を振り返って

「おもしろプロジェクト 2025」を通じた SIGMA の活動は、部活動の地域移行という大きな転換期において、大学生主導による新たなスポーツ環境の構築を提示する重要な一歩となった。

野球競技においては、定期練習会の継続的な実施に加え、元プロ野球選手・正田耕三氏を招いた特別教室の開催、県内外のチームとの実戦経験、さらには地域行事への参画など、当初の計画を上回る多角的な成果を収めることができた。大学生が指導・運営の主体となることで、中学生にとっての「心理的な居場所」と「高いレベルの競技環境」の両立が可能であることを実証できた点は、最大の手応えである。

一方で、本プロジェクトの4本柱の一つとして掲げた「多様なスポーツへの展開」については、次年度へ向けての明確な課題が残った。活動期間を通じて、山口市内の各中学校の教諭や関係各所との対話を重ね、信頼関係を構築することには成功したものの、具体的な競技イベントの実施や定期的な指導体制の確立には至らなかった。これは、各競技特有のニーズ把握や、施設確保・指導員確保の調整に想定以上の時間を要したことが要因であると考えられる。

しかし、今年度の活動で得られた学校現場との強固なネットワークは、多競技展開を実現するための不可欠な「土台」となったと考える。本プロジェクトで得た知見と反省を活かし、来年度以降も機会をいただけるのであれば、野球で培った「シグマモデル」をテニスやバドミントンといった他競技にも波及させ、山口市全域における「安心してスポーツを続けられる環境」の完成を目指したい。

最後に、本プロジェクトを支えてくださった自主活動ルームの石井コーディネーターをはじめとする山口大学のおもしろプロジェクト関係者様と関わった全ての皆様に深く感謝の意を表し、本報告の結びとする。



# 驚きと感動が詰まった、新しい医食バーガープロジェクト

## —HEART BURGER—

|     |                                                                      |
|-----|----------------------------------------------------------------------|
| 代表者 | 阪田拓海（医学B 3年）                                                         |
| 構成員 | 小川晃東（医学B 3年） 塩田龍之亮（医学B 3年） 藤岡輝（医学B 3年）<br>塩瀬隆太郎（医学B 2年） 後藤秀明（医学B 1年） |

### 1. 概要

本プロジェクトでは、「医」と「食」を融合させることで健康意識の向上と新たな価値創出を目指し、医学的知見を取り入れたバーガーの開発と社会発信を行いました。

近年、食生活の多様化や利便性の向上に伴い、生活習慣病や食物アレルギーなどの健康課題が社会的に注目されています。特に食物アレルギーを持つ人々にとって、「同じ食卓で同じものを食べること」が難しいという問題は日常生活における大きな制約となっています。このような状況の中で、食事は単なる栄養摂取にとどまらず、「健康を支える生活の基盤」としての役割が期待されています。

そこで本プロジェクトでは、メンバーが愛してやまない、誰もが親しみやすい食品である「バーガー」を題材に、医学的知見を取り入れた新しい食の形を提案することを目的としました。特に腸内細菌が産生する短鎖脂肪酸に着目し、食物繊維を含む食材を組み合わせることで腸内環境の改善を意識した食品設計を行いました。また、可能な限り主要アレルゲンを排除することで、食物アレルギーを持つ人にも配慮した商品開発に挑戦しました。

さらに地域の飲食店や農家と連携し、試食会や地域交流イベントを通して本取り組みを社会へ発信しました。本活動を通して、医学生として学んだ知識を社会課題の解決に結びつける実践的な経験を得ることができました。

### 2. 背景

本プロジェクトの着想は、代表自身の経験から生まれました。

私は幼少期よりアレルギー性鼻炎に悩まされており、受験期には季節に関係なく箱ティッシュを手放せない生活を送っていました。コロナ禍により自宅で過ごす時間が増えた際、健康を意識してヨーグルトを毎日食べる習慣ができました。しばらく継続するうちに鼻水の症状が軽減しているように感じるようになりました。当時は理由を深く理解していませんでしたが、医学部に入学して免疫学を学ぶ中で、腸内細菌が産生する短鎖脂肪酸が免疫反応の過剰な活性化を抑える働きを持つことを知りました。

そこで当時食べていたヨーグルトの表示を確認したところ、「短鎖脂肪酸の産生」に関する記載があることに気づきました。

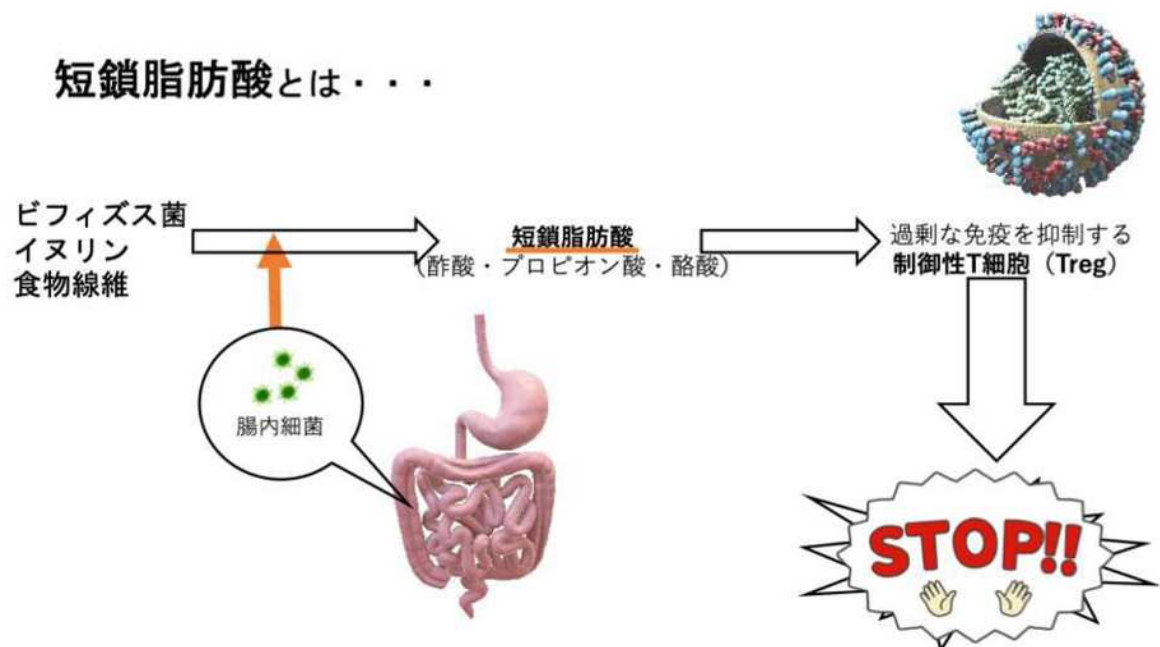


短鎖脂肪酸を生み出すヨーグルト（画像は江崎グリコ株式会社 HP より、印は筆者）

この経験をきっかけに、食習慣と免疫の関係、特に腸内細菌と食事の关系到強い関心を持つようになりました。現在では、以前のように箱ティッシュが手放せない生活からは大きく改善しています。

近年の研究では、短鎖脂肪酸は食物繊維などを腸内細菌が分解することで産生され、免疫機能の調整や炎症反応の抑制など多様な生理機能に関与することが報告されています。さらにアレルギー疾患との関連も示唆されており、予防医学の観点からも注目されている分野です。

## 短鎖脂肪酸とは・・・



短鎖脂肪酸の生成メカニズム

## プロジェクト考案の背景 ～短鎖脂肪酸のエビデンス～

Review | Nat Rev Immunol. 2024 Aug 24(8):577-586. doi: 10.1038/s41577-024-02018-6. Epub 2024 Apr 2.

### Short-chain fatty acids: linking diet, the microbiome and immunity

Elizabeth R Mearns<sup>1,2</sup> | Review | Open Access | Published: 16 August 2023

#### Short-chain fatty acids in diseases

Affiliations: <sup>1</sup>explore | PMCID: 39565643 | DOI: 10.1038/s41577-024-02018-6

Abstract | Cell Communication and Signaling | 21, Article number: 213 (2023) | Cite this article

21k Accesses | 53 Citations | Metrics

**Abstract**  
The short-chain fatty acids (SCFAs) are the main metabolites produced by bacterial fermentation of dietary fibres in the gastrointestinal tract. The absorption of SCFAs is mediated by substrate transporters, such as monocarboxylate transporter 1 and sodium-coupled monocarboxylate transporter 1, which promote cellular metabolism. An increasing number of studies have implicated metabolites produced by microorganisms as crucial regulators of diet-based microbial influence on the host. SCFAs are important fuels for intestinal epithelial cells (IECs) and represent a major carbon flux from the diet, that is decomposed by the gut microbiota. SCFAs play a vital role in multiple molecular biological processes, such as promoting the secretion of glucagon-like peptide-1 by IECs to inhibit the elevation of blood glucose, increasing the expression of G-protein-coupled receptors such as GPR41 and GPR43, and inhibiting histone deacetylases, which participate in the regulation of the proliferation,

短鎖脂肪酸が炎症を抑える

抑制性免疫細胞を活性化させ、アレルギーを抑制



注目度が高まっている分野

短鎖脂肪酸とアレルギーの関係に関するエビデンスの増加

そこで本プロジェクトでは、短鎖脂肪酸の産生を促す食品設計をコンセプトとして、食材選定とレシピ開発を行うこととしました。

### 3. 活動内容および成果

#### 3.1 活動における課題と工夫

プロジェクトは6月の採択を契機に開始しましたが、同時期に私は医学科の自己開発コースの一環として海外研究に参加することとなり、日本での実働に関わることが難しい状況に直面しました。

代表でありながら現場に立てないという状況は大きな課題でしたが、この状況を単なる制約として捉えるのではなく、「遠隔から組織を動かす挑戦」として取り組みました。具体的にはオンラインミーティングを定期的に実施し、役割分担の明確化と進捗管理を行いました。また海外にいる利点を活かし、先行研究や海外事例の調査を進め、プロジェクトの理論的基盤の強化に取り組みしました。

帰国後の12月からは実行段階へ移行しましたが、そこで直面したのが「構想を現実にする難しさ」でした。おそらくプロジェクトの制度上、食材の購入ができず、すべての材料を無償提供に依存する必要がありました。この条件は商品開発としては非常にハードルが高く、さらにアレルギー除去というテーマは事業者にとって責任リスクも伴うため、協力先の確保は容易ではありませんでした。

実際に複数の飲食店へ協力を依頼しましたが、採算性や責任問題の観点から断られるケースが続きました。そこで私たちはアプローチ方法を見直し、「依頼する」のではなく「共に価値を創出するパートナーとして協働する」という姿勢で関係構築を進めました。

その結果、本プロジェクトの理念に共感してくださった「THE ONIBUS BURGER」様と出会い、共同でバーガー開発を行うことができました。

また食材調達においては、山陽小野田市民活動センターの協力を得て地域農家とのネットワークを紹介していただきました。その中で「花の海」様が本プロジェクトに共感し、高品質な野菜を無償提供していただきました。

このような地域との連携により、本プロジェクトは単なる学生活動ではなく、地域社会と協働する取り組みへと発展しました。

#### 3.2 開発したバーガーの詳細

THE ONIBUS BURGER様と共同開発したバーガーでは、腸内細菌による短鎖脂肪酸産生を促す食品設計を意識しました。

使用した主な食材は以下の通りです。

- ・米粉グルテンフリーバンズ
- ・牛肉 100%パティ
- ・岩国レンコン：独特の粘り気があり、食べ応えを増加させる食材でした。食物繊維はレンコン 100g 当り 2～3g 含まれ、さらにはレジスタントスターチという難消化性でんぷんとも呼ばれる食物繊維と同様の働きを持つ物質も含まれています。
- ・レタス
- ・タマネギ：タマネギはフルクタンという物質が含まれており、これらは腸内細菌の餌となることが知られており、短鎖脂肪酸を生み出す腸内細菌を生かし増殖させる働きが期待されています。
- ・粒マスタード：粒マスタードはマヨネーズのような味わいをもたらしますがマヨネーズとは異なりアレルギーを用いらず、また辛くない粒マスタードを使用することで食べる人を選ばない味付けとなりました。下の成分表からも判断できるように酢が成分として入っており、直接短鎖脂肪酸を摂取する構造が描けました。

岩国レンコンには食物繊維に加えレジスタントスターチが含まれており、腸内細菌の基質となる可能性があります。またタマネギにはフルクタン（イヌリン）が含まれており、腸内細菌の増殖を促す働きが期待されます。さらに粒マスタードには醸造酢が含まれており、酢酸を直接摂取できる点も特徴です。

これらの食材を組み合わせることで、「美味しさ」と「健康機能」を両立させるバーガーを設計しました。

表 1 成分表

|              |                                                        |
|--------------|--------------------------------------------------------|
| グルテンフリー米粉バンズ | 米粉・ライスマイルク・てんさい糖・食塩・米油・パン酵母・グルコマンナンペースト・HPMC・ベーキングパウダー |
| 岩国レンコン       | 20g                                                    |
| レタス          | 30g                                                    |
| タマネギ         | 20g                                                    |
| たまりしょうゆ（本醸造） | 大豆・食塩・アルコール                                            |
| 粒マスタード       | からし・醸造酢・ワイン・食塩・砂糖・濃縮りんご果汁・香辛料                          |

これらの成分表から、文献を参考にイヌリン・食物繊維を算出し、さらに体内で算出される短鎖脂肪酸量の予測を以下に示します。

表 2 医食バーガーから産生される短鎖脂肪酸量

| 食材名        | 食物繊維量<br>（うちイヌリン量） | 予測される生成<br>短鎖脂肪酸量 | その他                             |
|------------|--------------------|-------------------|---------------------------------|
| レタス 30g    | 0.33g (0g)         | 0.1g～0.2g         | —                               |
| 岩国レンコン 20g | 0.5g (0g)          | 0.2～0.3g          | レジスタントスターチによる増加の可能性あり           |
| タマネギ 20g   | 0.30g (0.2g)       | 0.1～0.2g          | フルクタンによる腸内細菌増加によって短鎖脂肪酸増加の可能性あり |
| 酢酸         | 0g                 | 0.1～0.2g          | —                               |
| 合計         | 1.13g              | 0.5～0.9g          | —                               |

成分表および文献値を基に本バーガーに含まれる食物繊維量を算出した結果、レタス、タマネギ、レンコンを合わせて約 1.1g と推定されました。一般に食物繊維 1g あたり約 0.3～0.6g の短鎖脂肪酸が産生されると報告されていることから、本バーガー 1 食あたりの短鎖脂肪酸産生量は約 0.5～0.9g と推定されます。さらに粒マスタードに含まれる酢由来の酢酸摂取も加味すると、総量として約 1.0g の短鎖脂肪酸供給が期待されます。

私が実際にアレルギー改善の理由となったと考えているヨーグルトでは、食物繊維が100g当り1.9gと公表されており、375gあるため同様の計算過程で短鎖脂肪酸は2g～4g生成されます。

一方で、短鎖脂肪酸の産生量とアレルギー抑制効果との間には明確な定量的関係は確立されておらず、個々の腸内細菌叢の状態によって影響を受ける点には留意が必要です。

以上より、本バーガーは375gヨーグルトほどの短鎖脂肪酸の生成は見込めないが、「美味しさ」と「健康機能」を両立し、食事を通じて腸内環境および免疫調節にアプローチする新たな食品設計の一例を提示するものとして開発できました。また、医食バーガーは、腸内細菌の餌も含むことで腸内細菌を増やし生成される短鎖脂肪酸量の増加を狙え、美味しく健康意識を高めます。

また、ヨーグルトによる介入は一定量の継続摂取が求められる一方で、実際には味や量の単調さから継続が困難であるという課題があります。実際に、私自身も多量摂取に負担を感じ、周囲に勧めた場合でも継続的に摂取できない例が認められた。

これに対し、本バーガーは日常的な食事として無理なく摂取可能であり、高いアドヒアランスが期待できる点に特徴があります。継続的な摂取が可能となることで、結果的に短鎖脂肪酸の産生や腸内環境への影響において、ヨーグルト摂取と同等、あるいはそれに近い効果が得られる可能性が示唆されました。



### 3.3 学内試食会

開発した「医食バーガー」の評価を目的として、令和8年3月6日（金）に医学部内において学内試食会を実施しました。参加者は医学科および保健学科の学生であり、学年は1年生から上級学年まで幅広く参加が見られました。参加者の傾向としては女性の割合が比較的高く、バーガーそのものへの関心、あるいは食物アレルギーや健康志向への関心の高さが背景にある可能性が考えられました。

試食会を通して特に興味深かった点は、参加者の多くが食物アレルギーや健康志向に一定の関心を持ちつつも、「アレルギー対応食品は質素で味が薄く、美味しくない」という先入観を持っていたことです。このような印象は、これまでのアレルギー対応食品のイメージに由来するものと考えています。アンケート結果を図1に示します。

一方で実際に試食してもらったと、「アレルギー対応食品は原価が高く量が少ないと思っていたが、米粉やレンコンが使用されており食べ応えがあり美味しい」「このように健康を意識しながら食べられるバーガーであれば一般販売してほしい」といった肯定的な意見が多く寄せられました。試食会後のコメントを図2・3に示します。

これらの結果から、本プロジェクトを通して、食物アレルギー対応食品に対する従来の印象を変える可能性や、アレルギーおよび健康意識への関心を高める効果があることが示唆されました。また、試食会で得られた具体的なフィードバックをバーガー店舗側と共有し、味・食感・ボリュームなどの改善に反映させることで、最終的な開発バーガーの完成につなげることができました。

何より、学内試食会において印象的であったのは参加者の笑顔の多さです。写真を見ていただくと分かるように、我々が開発したバーガーを囲み、参加者が同じものを食べながら感想を共有し、「美味しい」と笑顔になる場面が多く見られました。今回開発したバーガーは、食物アレルギーの有無に関わらず多くの人が同じ食事を楽しむことを可能にし、人々の健康意識を高めるとともに、食卓に笑顔をもたらす新しい食品となる可能性があると考えています。

また、本イベントを開催するにあたり宇部市保健所から許可を得た上で実行しております。

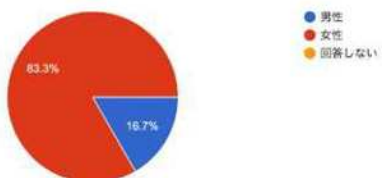




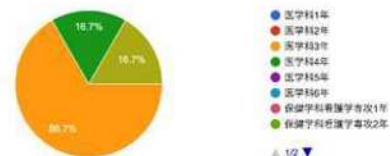


学内試食会の様子

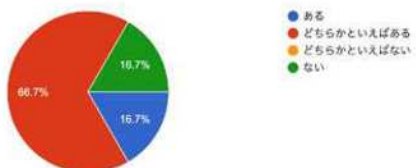
性別  
6件の回答



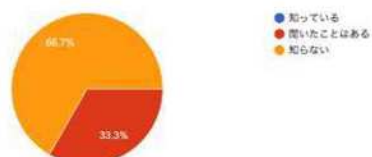
学科・学年  
6件の回答



アレルギーに関心がある  
6件の回答



アレルギーを抑制する物質（短鎖脂肪酸etc.）が発見されていることを知っていますか  
6件の回答



ハンバーガー専門店と共同開発した8大アレルギーを除いた短鎖脂肪酸を生み出すハンバーガーが販売されたときに購入したいと思いますか  
6件の回答

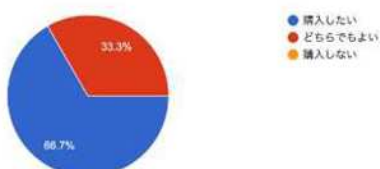


図1：試食会参加者の事前アンケート結果

米粉のバンズは初めてだったのでとても新しい食感に加えてレンコンも加わりとてもおいしかった。バンズが甘いのももう少し味が濃いめでも良いのかもしれないと思った。また子供も食べるので粒マスタードは少なめの方がいいのかもしれない。

1件の回答

美味しかった。レンコンの歯応えがいい。味付けも醤油ベースでスッキリしていて美味しかった。米粉のバンズは初めて食べたが、新しい食感でバーガーとも合っていた。サイズは十分で、発売するなら小サイズがあってもいいかも。

1件の回答

米粉のバンズがモチモチで非常に満足感のあるハンバーガーでした。レンコンが入っているハンバーガーはあまりないと思うので良いなと思いました。とても美味しかったです。ありがとうございました。

1件の回答

思っていたよりかなり美味しくてばくばく食べてしまった。アレルギーフリーという名前から味も薄く食べ応えがないかと思っていたが、食べ応えもあり一般販売して欲しいと思った。

1件の回答

米粉の方が食感が今まで食べたことなくとてもおいしかったです。味もしっかりあってとてもおいしかった。アレルギーがなくても食べたいくらいおいしかったです。

1件の回答

図2：イベント後のアンケート結果(1)



#### BURGERの感想および試食会へのコメント

まずお肉が美味しかった。脂肪分が少なく肉の旨みがすごくあった。レンコンも非常に相性がよくて、適度な甘さと食感のアクセントになっていて、食が進みました。見た目はシールが可愛くていい感じだった。パンズは、ぷりぷりしていて食べ応えがあった。あえて言うなら私はパンズが薄い方が食べやすいと思った。米粉だからなのか、ぎゅっしりつまってある感じがあって、肉もレンコンもしっかりしているので、ちょっと重いなと思いました。参考になればとあえてパンズのことは書きましたが、全体はめちゃくちゃ美味しかったです。普通にお金払っても食べたいです。アレルギーのある子どもたちはとっても喜ぶと思いますし、健康に気を使っている中高年にも喜ばれると思いました！

1件の回答

すごくボリュームで、アレルギー対応のものとは思えないくらい美味しかったです！蓮根も歯ごたえがあって美味しかったです！子供用なのであれば成人女性でお腹いっぱいになったのももしかしたら少し大きいかな？とは思いましたが、お腹いっぱいハンバーガーを食べれるのも嬉しいと思うので、良いのかなと思います。ありがとうございました！

1件の回答

めちゃめちゃおいしかったです！パンが米粉でもっちりしてて美味しかったです。れんこんや玉ねぎで食感もよくて、よかったです。お腹もいっぱいになって、いいサイズでした。あとハンバーガーのシールが、なーんか好きでした。売っていたら食べたいです！ありがとうございました👍

1件の回答

岩国れんこんの甘さと食感がとても際立っていて、マスタードの刺激と合わさりとてもおいしかったです。パティはつなぎを使っていないので、肉肉しさは強く感じますがジューシー感みたいところが寂しく感じました。完成度はとても高く良かったです！

1件の回答

米粉のパンズは初めてだったのでとても新しい食感に加えてレンコンも加わりとてもおいしかった。パンズが甘いのももう少し味が濃いめでも良いのかもしれないと思った。また子供も食べるので粒マスタードは少なめの方がいいのかもしれない。

1件の回答

図3：イベント後のアンケート結果(2)

### 3.4 学外イベント「山口大学の医学生とぼれぼれさんと話そう。食とアレルギーのこと。～同じテーブルで、安心して食べることを考える交流会～」

令和8年3月8日（日）に、山陽小野田市民活動センターにてイベント「山口大学の医学生とぼれぼれさんと話そう。食とアレルギーのこと。～同じテーブルで、安心して食べることを考える交流会～」を開催しました。

当日は、子ども食堂を運営されている団体の方々や、実際に食物アレルギーを持つ参加者、アレルギーを持つ子どもの保護者、アレルギーは患っていないものの食やアレルギー問題に関心のある方など、約20名の参加がありました。

プログラムでは、まず我々HEART BURGERによる自己紹介および本プロジェクトの活動報告を行いました。続いて、アレルギー当事者団体である「アレルギーっ子の会ぼれぼれ」様より自己紹介とご講演をいただき、アレルギーを持つ方々の日常生活や食事における課題など、当事者の視点からの実体験についてお話しいただきました。

その後は参加者と我々の団体による交流会を実施し、食物アレルギーに関する日常の悩みや食事環境の課題について意見交換を行いました。また、我々のプロジェクトについても、発足の経緯や開発の過程で直面した課題、プロジェクト遂行の難しさなどを共有しました。その際には、現在市販されているアレルギー対応のバーガーやアレルギー対応食品(お菓子)について紹介していただき、実際に試食を行いました。

本イベントを通して、食物アレルギーを取り巻く現状について理解を深めるとともに、当事者・支援者・学生が同じ立場で対話する機会を創出することができました。また、「同じテーブルで安心して食べる」というテーマの重要性を改めて実感する機会となりました。

その後、我々が開発した医食バーガーの披露を行い、実際に小麦アレルギーのある参加者にもご自身の判断でお召し上がりいただきました。アレルギーの有無にかかわらず参加者全員が同じものを食べるという体験を共有し、多くの驚きと感動（笑顔）を見ることができました。

本プロジェクトの社会的意義を強く実感したのは、このときの参加者の反応でした。開発したバーガーを通じて、これまで食の制約を受けてきた人々に新たな選択肢を提示することができました。特に印象的であったのは、小麦アレルギーを持つ参加者からの言葉です。その参加者は試食後、「これがあれば気を使うことなく友人と同じものが食べられる。今後は楽しみであり、活動が続くなら自分も関わりたい」とコメントされました。

この言葉は単なる商品評価にとどまらず、「食を通じた社会参加の可能性」が実現された瞬間であったと感じています。これまで当たり前に共有されてきた「同じものを食べる」という体験が、アレルギーを持つ人々にとっては制限されていた現実を改めて認識するとともに、本プロジェクトの意義を強く実感しました。

さらに、イベントに参加していた子ども食堂の運営者からは、「自身の娘もかつてアレルギーを抱えており、子育てに苦労した経験がある。もし当時このような取り組みがあれば救われていたかもしれない。本活動を全力で応援したいし、ぜひ連携したい」との言葉をいただきました。この発言は、本プロジェクトが単発の取り組みにとどまらず、地域社会における継続的な価値創出へと発展し得る可能性を示すものであると考えられます。

また、本活動を進める中で、今後のイベント出展や子ども食堂への協力依頼もいただきました。3月でプロジェクトが終了することを伝えると残念がる声も多く聞かれ、胸が苦しくなる場面もありましたが、同時に社会的ニーズの大きさを実感する機会となりました。

これらの声は、本プロジェクトが単なる「新しいバーガーの開発」にとどまらず、「社会課題に対する具体的な解決の糸口」として機能し始めていることを示しています。特に、食物アレルギーという個人の問題に見えがちな課題が、実際には家族や地域社会全体に影響を及ぼすものであることを踏まえると、本プロジェクトの持つ意義は極めて大きいと考えられます。

実感した社会的ニーズの大きさも踏まえ、今後の活動を継続させるかについては慎重に検討していきたいと考えています。

本イベントは宇部日報様にも取り上げていただき、3月13日の記事に掲載していただきました。そして本イベントにおいても開催するにあたり宇部市保健所から許可を得た上で実行しております。



Challenge Workshop

山口大学の！  
医学生とぽればれさんと話そう。  
食とアレルギーのこと。

同じテーブルで、安心して食べることを考える交流イベント

要申込

2026 3.8 参加無料 SUN 11:00~13:00

会場：Aスクエア会議室4・5  
定員：20名程度

内容：医大生による自己紹介・活動報告、ぽればれさんによるアレルギーについての  
お話し、市販のアレルギー対応食品を囲んだ交流・意見交換など  
〇交流のきっかけとして、市販のアレルギー対応食品を試食します

〇お申し込みは、随時・先着順で行います。定員に達した場合は、申込受付終了となります。お申し込みをお願いします。

〇お申し込み：山口大学「HEART BURGER」プロジェクト  
山口大学医学部に在籍する学生が、学食プロジェクトの一環として、アレルギー対応のハンバーガーを開発しています。今回の交流会では、これまでの活動について報告を行います。また、交流を通じて参加者から寄せられた声は、今後のハンバーガー開発に反映されます。

〇アレルギーのぽればれ  
山口県内で活動している、食物アレルギーの子どもの家族と保護者で構成する会。相談会や交流会などでアレルギーに関する悩みを相談したり、情報交換などを行っています。

申し込み  
問い合わせ

山陽小野田市民活動センター  
〒756-0824 山陽小野田市中央二丁目3番1号（Aスクエア1階）  
TEL：0836-52-8668 Mail：info@soc-cac.jp

お申し込みはこちら

## イベント広告

# 食とアレルギーを考える

## 山口大医学生らと意見交換

山陽小野田市民活動センター（青木義一センター）主催の交流会「山口大学の医学生とぽればれさんと話そう。食とアレルギーのこと」が8日、中央2丁目の複合施設「Aスクエア」で開かれた。市民活動団体の関

係者、子ども食堂を運営する市民ら20人が講話を聞き、アレルギー対策食品を試食。意見交換も行った。

食物アレルギーを持つレギーを開発した山口大の

人も同じテーブルで安心して食べられることを考える交流会。学内プロジェクトの一環として、アレルギー対応のハンバーガーを開発した山口大の

団体HEART BURGER（阪田拓海代表）が活動を報告した。

阪田代表は、花粉アレルギーの症状を軽減させた経験や、食物アレルギーを持つ子どもの家族が同じメニューを選択できない悩みを解決したいと同プロジェクトを立案。免疫の暴走を防ぐ短鎖脂肪酸に注目し、主要アレルギーの除去で、誰でも食べられる「医食バーガー」を開発した。「試食会では、アレルギー対応でも食べ応えがあると評価され、笑顔が広がった。プロジェクトは3月末で終了するが、活動を継続したい」と宣言した。

県内で活動するアレルギーの患者会「アレルギー1っ子の会ぽればれ」の田辺理恵代表は、アレルギーを持つ人たちの外食事情について講話。「原因物質や重症度はそれぞれ。食材や調理環境が分かれば自分で判断できる」と、災害時や子ども食堂などでの食事の提供時の情報開示を訴えた。

（野村）

プロジェクトを報告する阪田代表（Aスクエアで）

長）主催。市民の交流や駅前の活性化を目的に、2001年から年4回開いている人気イベントで、毎回、市内外から多くの人が訪れている。

おもちゃやリユース品、古着などを販売する25店が出店。名物の100円ゼンざい、市内外の農家が育てたトマトやキウイ、鮮魚店の焼きイカも並び、韓国ののり巻きキンパや肉まんも人気を集めた。

防災コーナーでは、高千帆地区防災士会が南海トラフ地震を想定した避難所（こころの）を

宇部日報2026年3月13日掲載記事



学外イベントの様子

#### 4. 今後について

今後の展望としては、今回理論値に基づいて設計した短鎖脂肪酸の生成効果について、実際の食品分析等を通じた検証を行い、より科学的根拠に基づいたプロダクトへと発展させていきたいと考えています。また、さらなる改良を重ねることで、機能性表示食品としての可能性も視野に入れ、企業との連携による社会実装を目指していきます。特に、短鎖脂肪酸に着目した製品を展開する企業との協働を通じて、研究と実社会を接続する新たなモデルの構築に挑戦したいと考えています。

本プロジェクトは、限られた時間と資源の中で取り組んできた挑戦であり、未だ発展途上の取り組みです。しかし、医療と食を結びつける本活動は、人々の健康意識に新たな視点を提供し得る可能性を有していると考えています。今後も継続的な改善と検証を重ねることで、本プロジェクトの価値をさらに高め、社会へ広く還元していくことを目指します。

また、本プロジェクトを遂行する過程において、メンバー一同、人間的にも大きく成長することができたと感じ

ています。私たちの想いに共感してくださる方々と出会えた喜びがある一方で、社会の中で取り組みを実現していくことの難しさや、思うように進まない悔しさを感じる場面も多くありました。特に、本プロジェクトは学生主体の活動であり、利益を生むことが難しい制度的制約もある中で、企業や地域の方々に活動の意義を理解していただく難しさも経験しました。

そのような状況の中でも、本活動を温かく見守り、親身に相談に乗ってくださる多くの方々の支えによって、バーガーの開発を実現することができました。また、イベントや試食会を通じて多くの笑顔が生まれ、アレルギーを持つ人と持たない人が同じ食卓を囲む体験を共有することができました。さらに、本活動を通して健康意識を高めたいという方や、この取り組みに関わりたいという方々と出会えたことも、大きな成果であったと感じています。

一方で、社会的ニーズの大きさや本活動への期待の声を実感する一方で、資金面や時間的制約といった現実的な課題も存在しています。今後はこれらの課題を慎重に検討しながら、本プロジェクトの継続や発展の可能性について模索していきたいと考えています。

## 5. 謝辞

本年度の山口大学おもしろプロジェクトに採択いただきました谷澤幸生学長をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、本プロジェクトについて親身にご支援とご助言を賜りました学生支援センターの石井智子コーディネーター、物品購入から学内イベントに至るまで多岐にわたりご支援いただきました医学部学務課学生支援係の國近様、おもしろプロジェクト事務担当の坂田様に、深く御礼申し上げます。

そして、本プロジェクトの考案段階からご協力いただき、遂行にあたって全面的にご指導・ご支援を賜りました医学部神経生理学講座（旧第2生理学講座）の木田裕之准教授に深謝申し上げます。

また、本プロジェクトにおけるイベント開催およびバーガー開発にご協力いただきました THE ONIBUS BURGER の富村修様をはじめとするスタッフの皆様、食材を快くご提供いただきました花の海の金子陽平様、地域の方々との連携やイベント開催に至るまで多大なるご支援をいただきました山陽小野田市民活動センターの青木義一様、コーディネーターの中村夏江様、ならびにスタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。

最後に、自身の考えを尊重しながら、時には議論を重ねつつ共に活動を成し遂げてくれたプロジェクトメンバーの皆さんに深く感謝いたします。誰一人欠けても、本プロジェクトをここまで進めることはできませんでした。

